

ボツワナ共和国月報(2024年10月)

主な出来事

【内政】

- 国民議会及び地方議会候補者の指名
- 期日前投票の実施
- 大統領討論会の開催
- 2024年ボツワナ総選挙の実施

【外政】

- 米国地球規模エイズ調整官、マシシ大統領を表敬
- キンバリー・プロセス議長、マシシ大統領を表敬
- ウクライナ大使、マシシ大統領を表敬
- クワペ外務大臣、国連の日を祝い演説

【経済】

- キンバリー・プロセス事務局オープニング
- e-モビリティプロジェクト
- 無鉛93ガソリン販売中止
- IMFによる経済見通し—2024年の経済成長率は1%を下回る—
- 国債発行—財政赤字の補填—
- 9月インフレ率は1.5%—前月より2.4ポイント下落—
- 8月の国際商品貿易統計—12か月連続の貿易赤字—

【その他】

- ケミカルハザードに関する国際シンポジウムの開催

【内政】

- 国民議会及び地方議会候補者の指名

4日、憲法の規定に基づき、公職立候補に必要な資格を満たしていない一部候補者を除き、国民議会及び地方議会候補者の指名が行われた。指名の直前には、民主改革のためのアンブレラ(UDC)がボツワナ愛国戦線(BPF)の支持が盤石なセロウエの3選挙区等から候補者を撤回し、他野党の支持に回る動きがみられた。

- 期日前投票の実施

19日、ボツワナ選挙管理委員会(IEC)は選挙当日に業務に従事する公務員及び在外ボツワナ人のための期日前投票を実施した。しかし、有権者名簿の未提出及び投票用紙における不備、監視団の認定の遅延等の問題が散見され、与野党より選挙の公正性と自由への懸念が示された。IECは、不完全な有権者情報が原因で投票用紙が十分に確保できなかったと説明し、26日に再度期日前投票を実施した。

○ 大統領討論会の開催

24日、大統領討論会が開催され、4名の大統領候補が出席した。討論会は経済、鉱物資源管理、失業、教育、医療、安全保障、ジェンダー暴力(GBV)、児童保護、若者の発展を主要テーマとして実施された。マシシ大統領はCOVID-19の影響により資金を命の救済に使用する必要があったと述べ、経済の多様化に向けた取り組みを進める意向を示した。ボコUDC代表は、人権を最重視し、貧困軽減に焦点を当てた質の高い生活の実現を目指すと述べた。

○ 2024年ボツワナ総選挙の実施

30日、2024年ボツワナ総選挙が実施された。民主改革のためのアンブレラ(UDC)が36議席、ボツワナ議会党(BCP)が15議席、ボツワナ愛国戦線(BPF)が5議席、ボツワナ民主党(BDP)が4議席、無所属候補が1議席を獲得し、ボツワナ共和国独立以来58年間続いたBDP政権が終焉を迎え、UDCによる政権交代が確定した。ディコロティ前保健大臣は、BDP候補であるセラメ財務大臣を約5千票差で破り、無所属候補として唯一当選した。

【外政】

○ 米国地球規模エイズ調整官、マシシ大統領を表敬

7日、ジョン・ヌケンガソン米国地球規模エイズ調整官はマシシ大統領を表敬した。マシシ大統領はジンバブエに対する国際的な制裁がボツワナに与える影響について触れ、米国はジンバブエに関する問題について、近隣諸国に影響を及ぼさない他の方法での対応を検討するべきであると述べた。

○ キンバリー・プロセス議長、マシシ大統領を表敬

7日、ビン・スライエム・キンバリー・プロセス(KP)議長がマシシ大統領を表敬した。同議長は、ボツワナの牛肉市場に関心を示し、投資の良い機会であると述べた。

○ ウクライナ大使、マシシ大統領を表敬

7日、リュボフ・アブラビトワ・ウクライナ特命全権大使は、マシシ大統領を表敬し、離任の旨を伝えた。近く新しい常駐大使が信任状を提出する予定である。

○ クワペ外務大臣、国連の日を祝い演説

24日、クワペ外務大臣は、国連の日を祝した演説を行い、国連が世界平和と団結の象徴であり、持続可能な開発を進める重要な役割を担っていると強調した。また、ボツワナが2030アジェンダの実施において前進しており、今年12月には内陸開発途上国

(LLDCs)会議をボツワナにて開催する予定であると述べた。

【経済】

○キンバリー・プロセス事務局オープニング

8日、ハボローネ市内にてキンバリー・プロセス(KP)事務局の開所式が開催された。式典には、モアヒ鉱物資源・エネルギー大臣、スライエムKP議長、タン同事務局長他政府・産業界及び当地外交団関係者が出席した。モアヒ大臣は、KP事務局をホストすることは、ボツワナが世界有数のダイヤモンド産出国であることを示すにはふさわしいことである、と述べた。

○e-モビリティ・プロジェクト

7日、ボツワナ技術研究革新研究所(BITRI)e-モビリティ組立センターにおいて、セミ・ノックダウン方式によるボツワナ初の電気自動車が披露された。このプロジェクトは、中国企業とのパートナーシップによって実現された。

○無鉛93ガソリン販売中止

11日、ボツワナ・エネルギー規制委員会は、主要供給元である南アNATREF製油所の精製能力の低下を原因として、2025年2月1日よりボツワナ国内の無鉛93ガソリン販売中止を発表した。同局によれば、2026年頃に南アは無鉛93ガソリンの販売を中止すると表明している一方、より良質の無鉛95ガソリンは豊富にあり調達可能であるとしている。

○IMFによる経済見通しー2024年の経済成長率は1%を下回るー

IMFは、世界経済見通しを公表し、2024年のボツワナの経済見通しを4月時点の3.574%から0.987%と大幅に下方修正した。

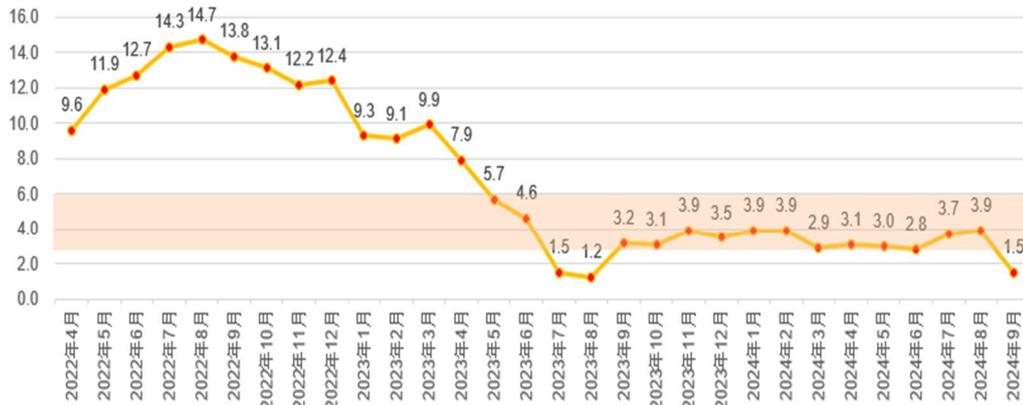
○国債発行ー財政赤字の補填ー

ボツワナ銀行は、政府に代わり、ダイヤモンド収入の落込みによる財政赤字を補填するため国債及び財務省短期証券の発行を通じ37億プラの資金調達を目指す。今年に入り、債券の利回りが上昇し、2043年満期物で8.37%から9.19%となり、年金基金など機関投資家からの安定した需要があるとしている。

○9月インフレ率は1.5%-前月より2.4ポイント下落-

9月の年間インフレ率(前年同月比)は1.5%となり、前月のインフレ率(同)3.9%から2.4ポイント下落した。分野別寄与度は、上位から雑貨・サービス(0.7%)、食品・非アルコール飲料(0.7%)、アルコール・タバコ(0.3%)であった。

(図: 最近のインフレ率の推移)

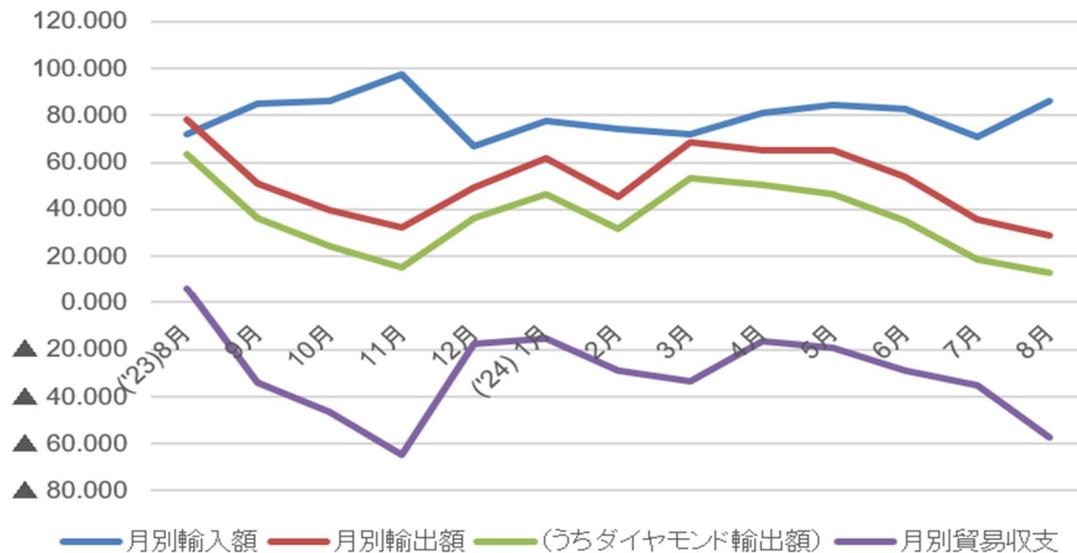


注: ボツワナ銀行中長期インフレ目標 (3%から6%)

○ 8月の国際商品貿易統計-12か月連続の貿易赤字-

8月の輸入総額は86.395億プラとなり、前月の70.840億プラ(改定値)から22.0%の増加、一方で輸出総額は、28.972億プラとなり、前月の35.499億プラ(改定値)から18.4%減少した(図)。ダイヤモンドの輸出額については、前月に引き続き、コロナ禍期間を含め最低水準となった。この結果、同月の貿易収支はマイナス57.423億プラと今年2番目に大きい赤字幅となり、2023年9月以降12か月連続の貿易赤字となった(同)。

(図: 月別貿易収支の推移: 2023年8月から2024年8月)



	('23)8月	9月	10月	11月	12月	('24)1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別輸入額	71,991	84,925	85,980	97,396	66,865	77,444	74,550	72,012	81,349	84,567	82,862	70,840	86,395
月別輸出額	78,364	50,980	39,459	32,434	49,466	61,897	45,566	68,672	64,989	64,950	53,816	35,499	28,972
(うちダイヤモンド輸出額)	63,615	35,999	24,185	15,282	36,332	46,231	31,835	53,354	50,537	46,681	35,043	18,523	13,235
月別貿易収支	6,373	▲33,945	▲46,521	▲84,962	▲17,399	▲15,547	▲28,983	▲33,400	▲16,360	▲19,617	▲29,046	▲35,341	▲57,423

注)2024年8月は速報値

(参考) 分野別内訳：上位5分野 (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	燃料 18.6	ダイヤモンド 17.6	飲食品等 15.4	機械・電機 13.4	化学・ゴム製品 10.1
輸出	ダイヤモンド 45.7	銅 29.9	機械・電機 7.0	塩・ソーダ灰 3.3	プラスチック類 1.8

(参考) 国別内訳：上位5か国 (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 59.2	ナミビア 13.9	モザンビーク 3.7	中国 3.7	カナダ 3.0
輸出	UAE 23.2	南ア 15.6	中国 15.2	豪州 13.2	インド 11.8

【その他】

○ケミカルハザードに関する国際シンポジウムの開催

8日及び9日、北海道大学及びポツワナ大学主催による「持続的な鉱物資源開発及び汚染のモニタリングに向けた地球規模のケミカルハザード(化学物質の危険性)に関する国際会議がハポローネ市内のポツワナ大学にて開催され、両大学及びポツワナ国内外から教授・研究者・学生が参加した。開会式にて、大森大使は、本シンポジウムにて地球規模のケミカルハザードに関する研究結果が共有されるとともに、日本、ポツワナ及び隣国間の共同研究や人物交流が進むことを期待する旨述べた。また、本シンポジウム開催の機会を利用し、JICAポツワナ支所主催による第1回JICAチェアが開催され、北海道大学教授・研究員による特別講演が行われた。

(了)